

金沢市善隣館協議会の取り組み ～ 11 館の結束～

社会福祉法人 第三善隣館（石川県）

住 所 石川県金沢市小將町 8-23

TEL 076-221-0962

URL

経営理念

事業内容及び定員

・ 保育所（69 人）	1 か所
・ 通所介護施設（介護予防通所介護含む）（34 人）	1 か所
・ 放課後児童クラブ（40 人）	1 か所
・ 福祉センター	1 か所
・ 居宅介護支援事業所	1 か所

事業のほか、金沢市善隣館協議会事務局を委託されています。

収 入

① 社会福祉事業	187,766,815 円
② 公益事業	7,507,882 円
③ 収益事業	0 円

(法人全体)
平成30年度決算

職 員 数
(法人全体)

60 名（非常勤含む）

当面する 経営課題

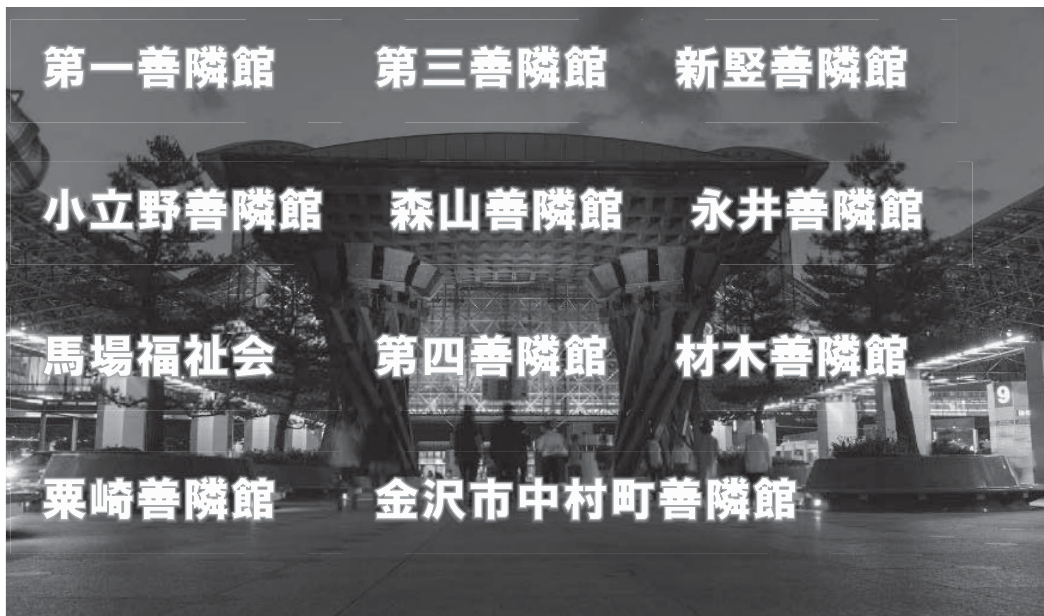
第三善隣館の問題

- ・ 赤字経営になる施設の収入源の確保
- ・ 複数施設経営の運営管理、経営管理
- ・ 耐震補強と建て替え（土地の問題、資金の問題、事業すべてを継続するのか、できるのか問題）
- ・ 慢性的な職員不足（保育士、介護職員）

金沢市善隣館協議会の問題

- ・ 新事業が継続的に取り組めるかどうか
- ・ 金沢市からの委託事業を受けているが、それ以外での資金獲得

金沢市善隣館協議会の取り組み ～11館の結束～



金沢市善隣館協議会事務局

社会福祉法人第三善隣館 奥村佳代
社会福祉法人栗崎善隣館 坂井祐子

(善隣思想とは)

助け合いの心で、近隣の人々と心をかよわせ、支え合い、お互いに善き隣人を創っていきこうという考え方

善隣館の歴史

- ・昭和9年に方面委員(民生委員の前身)である安藤謙治が第一善隣館を創設
- ・その後昭和35年までに19館の善隣館が設立
- ・善隣館は地域住民に対する社会事業と社会教育を行うための拠点施設
- ・設立当初は時代のニーズに応じて、託児所、授産所、診療所の経営の他、各種相談事業を実施
- ・設立当初の事業から、時代のニーズにより変遷し、現在は、保育所や地域デイサービス(通所介護施設)などを経営しているほか、地域住民の相談や交流事業を実施
- ・現在11館の善隣館で施設運営を行っているが、昨今の社福法人制度改革により、より一層の地域福祉活動、新たな善隣館活動が求められている



平成26年8月、金沢市福祉総務課(現地域長寿課)により、金沢大学地域創造学類眞鍋知子准教授(現教授)同行の元、全館の実態調査が行われ、善隣館の実情が明らかになった。

地域住民との関係が希薄化している

善隣館の歴史的経緯や役割について、職員や住民に知ってもらうための広報や学習会などを定期的実施している館はほとんどなく、善隣館の認知度や関心が低く、善隣館活動への参加協力は少ない。地域団体(社協、民協、町会、公民館など)との関係は良好であっても、地域の実態を把握する地域団体との情報の共有は個人情報に阻まれ難しい。

地域デイサービスの経営難

介護保険導入前から金沢市の委託事業として各館で営んでいた地域デイサービスだったが、他事業の参入により利用者の獲得に苦しむ。(当初11館すべてで行っていた地域デイ、H26年の時点で10館に、現在は4館になっている)

善隣館活動を行うスタッフがいない

善隣館活動を行いたい、施設職員にはその余裕がない。ボランティアで休日に何か行うという意識も持てないほど日常に追われている。「善隣館に就職した」という意識はほぼなく、「〇〇保育所に就職した」という意識でしかない。

他の善隣館が何をしているのか情報がない

11館ある善隣館が、横のつながりが無い。担当課からの事務説明会などで年に1度の顔合わせの場はあっても、何かを協議すること意見交換をすることは無い。互いがどのような活動を行っているか知らない。

そこで！ 金沢市善隣館協議会の誕生

- ・平成27年4月設立。
- ・金沢市における地域の連帯意識の象徴である善隣思想の普及啓発を推進するため。
- ・各善隣館の相互の連携と活動の充実を図ることを目的とし、次の事業を行う。
 - (1) 善隣思想の普及啓発に関すること
 - (2) 各善隣館の連絡調整及び共同事業の実施に関すること
 - (3) その他目的達成に必要な事項
- ・金沢市11館の善隣館理事長で代表者会を組織し、会の運営に携わる幹事会メンバー(4名)を中心に事業を運営。
- ・調査にも同行された金沢大学眞鍋教授にアドバイザーになっていただき、活動の要所で助言をいただいている。ゼミの学生にも協力をいただいている。

善隣館協議会の取り組み①

地域福祉意識醸成事業

- ・各善隣館で小学校との交流が行われているが、その小学生が善隣思想を知らないのではないか。交流活動に来る前に善隣館を知ってもらおう、善隣思想を知ってもらおうという事をきっかけに、小冊子づくりがはじまる。
- ・小冊子「いいね金沢 街を福祉の輪がつなぐ」を幹事会メンバー発案、学生の編集協力を得て作成した。
- ・出来上がった小冊子を用いて、各善隣館の理事長、施設長、職員が講師を務め、各館の歴史や特色なども交えて理解を深めてもらう。
- ・当初は小学生を対象にしていたが「善隣思想、地域福祉への初級編」ということで、中高生や学生、地域住民、職員など対象者が幅広くなっている。

あなたの身近にある地域福祉



①民生委員・児童委員
地域住民の生活状態を見守り、援助を必要とする人が自立した生活をおくることができるよう相談援助活動を行っています。

②地区社会福祉協議会

市内には54の地区社協が小学校区ごとに組織されています。民生児童委員協議会や町会連合会、公民館など各種団体を中心とした住民全体で構成されています。サロン活動や配食サービス、ボランティアの育成などを行っています。



③町会活動
地域住民で組織された団体で歓迎、レクリエーション活動、クリーン活動、防犯・防火活動、防災訓練などの活動を行っています。こども会や婦人会、老人会などの活動もあります。



④善隣館
善隣思想を背景に戦前戦後に設立された地域福祉の原点。デイサービスや保育所を中心とする福祉事業を行っています。

⑤放課後児童クラブ

保護者の就業などにより、放課後や長期休みの期間に保育が必要な小学生を預かってもらえます。異年齢の集団の中で、社会性を身に付ける場にもなっています。



⑥ボランティア団体
高齢者に対して配食サービスや友愛訪問をする団体。小学校に向き絵本の読み聞かせをする団体。施設で歌や踊りを披露する団体。対象や活動内容はさまざまです。

いろいろな人たちが
地域福祉に関わっているんだね。



「いいね金沢 街を福祉の輪がつなぐ」一部抜粋

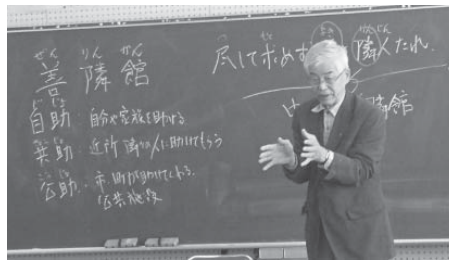
金沢市中村町善隣館 じいちゃん先生

講師:理事長

対象:中村町小学校5年生(授業)

毎年5年生の授業で1コマ善隣館に関する授業を行っている。

生徒たちからも「じいちゃん先生」と親しまれており、この授業を受けた子どもたちが、いこいの広場の参加者につながっている。



第三善隣館 思いやりってなに？

講師:職員

対象:味噌蔵児童クラブ1～5年生、保護者

児童クラブに通う子どもたちと保護者を対象に行う。自分たちの通う建物が善隣館ということを知らない子、保護者が多いが、保育所やデイサービスでの交流がボランティアの第一歩と知り、誇らしげにしている様子も見られた。

善隣館協議会の取り組み②

今後の善隣館活動のあり方に関する研究会 (通称:あり方研究会)

・新しい善隣館活動の探求には、より一層深く、濃い検討が必要であるが、幹事会メンバー(当初3人だった)では限界がある。

そこで!

・平成29年度より善隣館活動の新たな方向性を検討するため、善隣館職員5名と金沢市福祉局職員5名の実務者からなる研究会を設置した。

・1～2か月に1度研究会を開催し、善隣館の果たすべき役割について、独自性について、より具体的な取り組みへの探求を行っている。

・先駆的な取り組みを行う施設への視察も行い、同じ悩みを抱える方たちがどのように乗り越えたのか体験談を聞き、善隣館でも取り組みそうなノウハウを聞かせていただいた。

・平成29年11月、金沢市長への中間報告を行った。(詳細は次ページ)

・令和元年度中に最終報告を予定している。

中間報告の概要

課題1

介護報酬改定など法人収入の悪化に伴い、法人の長期展望が描けない

○ 中期計画(5年)の策定

必要な理由

- ・ 善隣館では単年度の事業計画を策定、実施しているが、単年度の元となるべき「中期計画」をたてていないのが実情であり、善隣思想の実現に向けて
 - ・ 長期的に活動を継続していくことが求められている。
- ・ 単年度ごとの経営状況を正しく判断するためにも、中期計画の立案は善隣館にとって必要不可欠であろう。

方向性

- ・ 各善隣館において、過去5年の実績や経営状況などを踏まえて、今後5年の中期計画を作成する。
- ・ コスト（特に人件費）の上昇に対する対応策の検討・立案が必要。
- ・ 法人役員と施設職員の現場の意見も盛り込んだものを策定する。
- ・ 令和元年度中には策定される見込み。

課題2

善隣館の認知度が高い地域がある一方、善隣館を知らない地域があるなど住民の認識は様々であり、統一的なPR活動など情報発信力を高める必要がある

○ 統一的なPR活動

必要な理由

- ・ 善隣館や善隣思想について認知度が高い地域がある一方、地域や一定の年齢層以下には認知度や関心はあまり高くないといった実情がある。
- ・ 福祉コミュニティの活性化の観点からも善隣館の存在意義や歴史的背景、事業状況などを広く周知することにより、金沢の福祉財産でもある善隣思想を継承していくことが必要である。

方向性

- ・ 平成30年3月より金沢市善隣館協議会のホームページを作成し、歴史的背景やモデル事業の活動内容、各善隣館での善隣館活動を紹介していく。
(<http://www.kanazawa-zenrinkan.jp/>)
- ・ SNS（現在はFacebook）でも活動内容をお知らせしている。

課題3、4

単一事業の運営では報酬切下げといった制度改正などの環境変化に対応することが困難。

新たな事業着手を行う財源の裏付けや人材がない。



総合的な事業運営



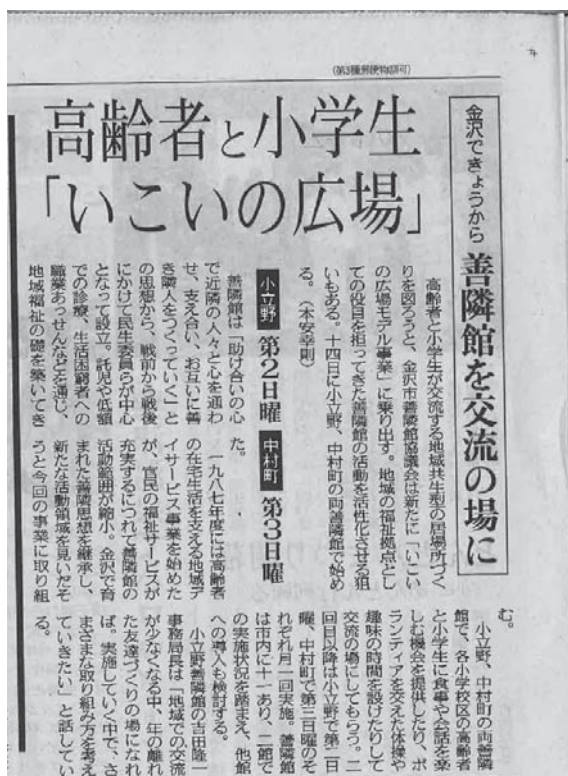
新たな事業着手

必要な理由

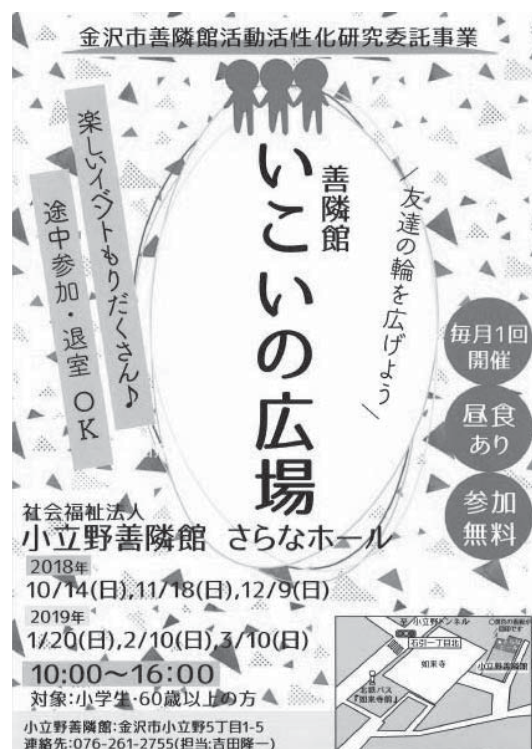
・新たな事業を着手するため、善隣館協議会といった枠組みにより、モデル事業を実施し、人材や資金などを共同で出し合うことにより、リスク軽減を図ることが期待できないか。

方向性

- ・平成30年9月よりモデル事業として「善隣館いこいの広場」を市内2か所の善隣館で毎月1回開催。廃業したデイサービス（通所介護）の施設を使用する。
- ・11館をAグループ（小立野善隣館にて開催）、Bグループ（金沢市中村町善隣館にて開催）に分けて取り組む。各善隣館から事業実施に必要な人材を派遣する、様々な事例や事業実施法を蓄積し、他善隣館での展開するかどうかを検討していく。
- ・平成30年度は高齢者と小学生を対象とする。金沢市より委託料あり、人件費や事業費に充てる。



北陸中日新聞朝刊(H30.10.14)



小立野善隣館いこいの広場 チラシ

Aグループ:小立野善隣館

テーマ:居場所づくり

- ・ 小立野、第三、馬場、森山、材木、栗崎の6館の担当者（理事長、施設長、職員）が当番制で運営にかかわる。
- ・ チラシを作製し小学校で配布。公民館や児童館、病院や郵便局など地域の様々な店舗等に設置。
- ・ 午前中は折り紙や手芸、臨床美術、工作など手先を使うクラフト講座やお菓子作りを行う。
- ・ 昼食は第一善隣館の運営するZenrinCafeで障害者就労継続支援事業を行う「NPO法人ふれあい工房たん」とよりカレーを取り寄せ提供する。（他法人の協力、活用）
- ・ 午後は旗源平、カードゲームをして過ごす。
- ・ 令和元年度より対象者を「地域の方なら誰でもOK」とし、未就学児のいる親子なども参加している。
- ・ 参加費、食事代は無料とし、コーヒーを100円で提供。
- ・ 令和元年度は馬場、栗崎で1回ずつ開催。（他善隣館への展開）



折り紙教室



美術大学の学生さんと交流



バレンタインチョコ



昼食のカレー



落ち葉を集めて焼芋



馬場福祉会での開催

Bグループ:金沢市中村町善隣館

テーマ:子ども食堂

- ・ 中村町が独自の地域ボランティアを活用。ゲーム担当や調理担当など役割分担をして運営。いこいの広場開催後は反省会を行っている。（あえてAグループとは異なる運営方式をとる。）
- ・ 第一、第四、新堅、永井は実行委員として会議参加。
- ・ 子供会のリーダーや地域サロンで参加の呼びかけを行う。小学校（5, 6年）にチラシの配布も行う。
- ・ デイサービス閉鎖から年月が経過していたため、調理機材の修理や整備を行った。
- ・ 午前はSST（コミュニケーション活動）やゲーム。
- ・ 昼食はボランティア手作りの食事を提供する。
- ・ 午後はマジックショー、笑いヨガ、大正琴ライブなど。
- ・ 参加費は子どもは無料、大人は300円



ジャガイモ掘りをして



ボランティアさんが
調理



カレーライスの完成！



SST(紙コップつみ)



工作教室



マジックショー

成果と今後の展望・課題

成果

- これまでなかった善隣館同士のつながりができたことで、情報の行き来がしやすくなった。
- モデル事業のやり方を固定しなかったことで、各善隣館が取り組むにあたり参考にできる選択肢が増えた。

展望

- 各善隣館において善隣館活動を行う場合に、地域での協力はもちろんのこと善隣館同士でも協力し合えるようになりたい。
- 地域共生型の事業に施設職員も積極的に参加できるようになりたい。

課題

- 継続的な事業を行うには、継続的な収入源も必要となる。金沢市の委託費以外での資金の獲得をどうしていくのか。
- 施設職員が参加するには意識改革も必要だが、勤務体制や働き方の整備も必要。

善隣館の原点 ～先人の言葉より～

「研究なくして進歩なし」(荒崎良道氏)

「調査に始まり調査に終わる」(荒崎良道氏)

「先覚者の行履(あんり)を忘れては

福祉は育たない」(荒崎良道氏)

「ボランティアというと何か難しいように思いますけど、お互いの助け合いだと申しますと、ああそうかと。結局は受け手になったり、担い手になったりの毎日ですものね。」(加納實氏)

地域に活動のヒントはきっとあるはず！